

「白石市立地適正化計画（案）」に関するパブリックコメントの結果について

○意見の募集期間：令和６年１０月１日（火）～令和６年１０月３１日（木）

皆様から頂きました貴重な意見を参考に白石市立地適正化計画の策定をしてまいります。

以下ご意見及び市の考え方を整理いたしました。

No.	該当 ページ	該当箇所、 項目など	意見の概要	市の考え方
1	28 51 79	・白石市の現状 ・まちづくりの 将来像 ・誘導施策	提案内容:福岡中学校の廃校及び白石中学校との統廃合の検討 提案理由:①長年にわたり、生徒の一部が北側の住宅地に向かって騒いだり、住民に迷惑行為をしている。私も被害者の１人であり、たびたび、市教委や福岡中学校に苦情を申し入れ、校長から謝罪を複数回受けているが、最近は落ち着いているものの完全にはなくなっていない。生徒たちが騒いでいるだけで不安になっている。校舎内で騒いでいる分には迷惑ではないが、外部に向かって騒ぐ生徒がいる限り不安が消えない。 ②公表されている生徒数に関する資料を見ると、全校合わせて100人未満になっている。福岡中学校は最近、外壁工事をしていたが、今後、子どもの人口が減少することが分かっている状況で、かつ福岡地区から白石中学校に通学している生徒もいるようなので、福岡中学校を存続させる意味があるのかという疑問があり、公共施設の再配置を考える上で、福岡中学校は不要と考える。	これからの小中学校のあり方については、条例で設置した第三者機関である「白石市学校教育・保育審議会」に諮問を行い、令和５年７月に答申を受けました。答申では、少子化等を踏まえ、向こう１０年のうちに全市的な再編を行うことが提案されました。 今後は、答申を重く受け止め、関係各位から幅広く意見を伺ったうえで、子どもたちの教育にとってより望ましいあり方を検討して方針を定めてまいります。 学校のあり方の検討には、一定の期間が必要なことから、当面、施設環境の充実や施設の安全性を確保するために必要な改修や点検・修繕を実施し、適正な維持管理に努めてまいります。
2	24 67 73	・白石市の現状 ・居住誘導区域 と都市機能誘 導区域の設定 ・誘導施設	提案内容:将来的な公立刈田総合病院の移転を検討して欲しい。 提案理由:現状は今のままでもいいが、今回示されている居住誘導の考え方からすれば、将来的に公立刈田総合病院の移転、出来るなら、市中心部への再移転を検討すべきと考える。現在の場所への移転後、市中心部が閑散とし活気が無くなったと考えており、市内の賑わいのためにも一考の余地はあると思う。	本計画（案）では、医療の充実を図ることで住みやすさの向上を目指すため、病院を誘導施設に設定しております。 現時点で公立刈田総合病院の移転計画はありませんが、頂きましたご意見は、賑わいあるまちづくりを検討するための参考とさせていただきます。
3	67	・居住誘導区域 の設定	人口減少や高齢化の対策を行わなければならないのは理解できるが、この計画では市中心部は様々な施策が行われ事になるが、それ以外の地域は人口減少が進み衰退するのではないか。	行政機能や商業機能など、様々な都市機能が集積するまちなかは、田園地帯や山地に点在する集落の暮らしを支える大切な機能を担っています。人口減少・少子高齢化が急速に進行する中で、市街地の中枢を担うまちなかを維持するため、居住誘導区域、都市機能誘導区域に設定したまちなかにおいて、居住や都市機能の維持・誘導に資する施策を行うこととしています。 それ以外の地域では、まちなかの都市機能などへアクセスできるよう、まちなかと集落を結ぶ充実した公共交通を確保し、公共交通でのアクセスが確保された各地域の中心部を地域生活拠点と位置付け、既存の生活サービス機能を維持することで、住み慣れたところに暮らし続けられるようにすることとしています。
4	78	・居住の維持・ 誘導に資する 施策	住環境の整備に道路整備の推進や雨水施設の整備などがあるが、今後は居住誘導区域しか整備しないのか。	行政機能や商業機能など、様々な都市機能が集積するまちなかは、田園地帯や山地に点在する集落の暮らしを支える大切な機能を担っています。人口減少・少子高齢化が急速に進行する中で、市街地の中枢を担うまちなかへの居住を促し、人口密度を維持するため、居住誘導区域内の道路整備の推進や雨水施設の整備などの住環境の整備を重点的に行うこととしています。 ただし、居住誘導区域外にお住まいの方の暮らしを維持することも必要であることから、施設の維持管理や改良、災害が起きた際の復旧などは、居住誘導区域外においても引き続き実施してまいります。